

好きこそものの上手なれ

倒錯者

— PACHISLO FREAK —

検証

事件の翌日、早番で出勤した私は事務作業をそそくさと終わらせ、ホールは従業員にまかせっきりで、犯人検証のため録画映像の確認に没頭していた。事件が発覚したのが昨日で、設定の打ち変えで異変があったのは11日前。事件発生は11日前より前であったこととなる。その11日前を基本として録画データを遡っていた。それにしても、面倒である。開店時間中は無視するにしてもかなりの手間がかかる。何かいい手はないだろうかと考えて思いついたのが警備会社に問い合わせである。警備システムの解除された時間のデータを教えてもらおうと思ったのだ。基本的に警備システムの解除は朝の8時頃、システムの設定が閉店作業後の深夜1時頃、それ以外のところでシステムに干渉があれば怪しいということになる。さっそく某警備会社に問い合わせ、そのデータの閲覧が可能か聞いてみた。返事は即答でOK。数日後に1ヶ月分のデータを郵送してもらおう約束をし、その日の検証作業を終えたのだった。

検証2

約束どおり数日後にそのデータは届き、さっそくそれに目を通す。数箇所に不審なシステム解除が見られるが、そのうち1箇所には赤ペンで「当社にて解除・確認」と書かれている。どういう意味かよく分からなかったが、警備会社が開けたものなので問題ないだろう。他の不審箇所に目を通すと、朝5時くらいの解除が何度か見られた。そのうち1箇所は私が開けたもので、これは前日が新台入替のため朝方まで作業をして、仮眠室に戻ったものの起きられる自信がなかったため、事務所で寝ようと開けたものだ。他の不審箇所は、1箇所を除き最近のものなので問題ないだろう。そして残る1つがとてつもなく怪しい。20日前の午前4時台、この日は特別早朝に開けなければいけない理由などなかったはずである。さっそく20日前の午前4時台を録画映像にて確認をしてみることに。

味かよく分からなかったが、警備会社が開けたものなので問題ないだろう。他の不審箇所に目を通すと、朝5時くらいの解除が何度か見られた。そのうち1箇所は私が開けたもので、これは前日が新台入替のため朝方まで作業をして、仮眠室に戻ったものの起きられる自信がなかったため、事務所で寝ようと開けたものだ。他の不審箇所は、1箇所を除き最近のものなので問題ないだろう。そして残る1つがとてつもなく怪しい。20日前の午前4時台、この日は特別早朝に開けなければいけない理由などなかったはずである。さっそく20日前の午前4時台を録画映像にて確認をしてみることに。

犯行現場がバッチリ映っている映像、決して嬉しい映像ではないのにこういうときは何故か胸の高まりが止まらない。ドキドキしながら防犯カメラデータの操作をする。それほど触るものでもないで操作はおぼつかない。おぼつかないながらも必死である。うちの祖父のパソコン操作とさほど変わりはない。がむしろに操作した。しかし、20日前のデータが見当たらない。14日前なら出せるのに、20日前のデータの出し方が分からない。犯人を追いかけるだけ追い詰めたのに、最後の詰めが分からないのだ。その昔立ちちは過大である。なぜかだんだん腹も立ってくる。電話だ!

「もしもし、〇〇社さん? 防犯カメラの映像データなんやけど、どうやって見の?」

「えーと、〇〇して〇〇で、一覧が出来ますが。」

「いや、それはやった。その方法やと14日前までしか出やんやろ? 20日前が見たいんやけど」

「それは無理ですね、2週間分しかデータは残りませんから。データを残したければ2週間ごとに記憶装置を換えて下さい」

「え...、そうなの... ついでに聞くけど、この赤ペンで書かれている『当社にて解除・確認』ってなに?」それはですね、たまにあるんですがクモが巣を作ったりするとその動きが感知され、こちらに通報が来るんです。確認に行きましたが、その日もクモの作業でした」

「あつそ。じゃいいです」

なんと、最後の最後に期待満載の衝撃映像は水の泡となった。しばらく呆然とし、肩をがっくり落とす。しかしそうは言つてられず、とりあえずその20日前の防犯システムの解除人物を特定しなければと、過去のシフト表を探し出した。そこにはある程度予想されていたH班長の名前があった。この日は私が休みだったため、H班長が早番責任者としてシステムの解除キーを持っていたことを考えると、ほぼ確実にこの早朝のシステム解除人物は彼である。なぜこの時間に出動したのか、本当にH班長が犯人なのかはわからないが、今となっては映像も残つておらず、また今の本人も行方知れずで確認する術はない。もうすでにこのモヤモヤを拭い去るのは不可能だ。

そんな折、ボーッと見ていた店舗裏出

入り口の監視カメラに店長の姿が映った。まだお昼前だというのにやけに早い出勤だ。間もなくして事務所の扉も開き店長が入ってきた。

「おいA、犯人は分かったのか? 映っていたか? お前のことだから録画映像を片っ端に調べたんだろ?」

やけに嬉しそうに店長がこういつてきた。その期待でいっばいの店長に対し、申し訳なさそうに私は言った。

「はい調べました。しかし店長が期待しているような映像はありませんでした。問い合わせたところ、映像が保存されているのは過去2週間だそうです。一応、その怪しい日が誰の担当だったかは調べました。それはやはり店長の予想通りH班長でした。しかし連絡も取れない以上、もう私に策はありません。警察の調べもなんの連絡もないことを考慮すると、全く当てにはなりません。」

「そうか、なら仕方ないな。被害がなかっただけでもよしとするか。おいA、お前はこういうことをするんじゃないぞ」

この店長の予想外の発言。いつものような調子ではない。いつもなら原因究明ができなかった私を罵り小ばかにし、最後にお決まりの高笑いのはずだ。キョートンとしてしまったが、そのなんとも言えない空間が嫌で次のように発してしまつた。

「私なら、もつとやりますよ(笑)」

「そうだな、きつとお前ならもつとまくやるだろうな」

冗談で言った私の言葉。店長も冗談であることは99%理解していたと思う。しかし再び店長らしさに欠けた発言。いままでこんな店長は見たことがない。自分の力のなさを認めようとした微妙な発言だ。すごく困っている印象を受けた。ほぼ確定的となったH班長の裏切り、それは許せないことだ。しかし店長にとつてそんな小さなレベルの問題ではなく、「それはない」そう信じきっていたのだと思う。こういう状況に置かれると、人は不思議と怒りを感じない。無力さだけが支配する。

今まで数々の問題を起こしてきた店長、わがままで傲慢、自分勝手。その時その時で私は店長への信頼をなくしていつていたし、今も信用しているわけではない。ただこのときは、そう思った思いも忘れ、心から「すみませんでした」そういつて事務所を出た記憶がある。

A氏プロフィール

三重県出身。三重の高校を卒業後、進学のため大阪へ。学業よりもパチスロに専念してしまいお決まりコースの大学中退。中退後3年間はパチスロで生計を立てる。その後サラリーマンになるも副収入はパチスロで。結婚のため三重に戻りホール店員となる。現在は知識と経験を生かし某店で設定師として手腕を振るっている。目押しレベルはスイカの種まで直視できるほどの異常っぷり。

我が家

最近、兄貴宅からスロット台が運ばれてきました。初代の北斗の拳です。一世を風靡したその名機も今では邪魔者扱い。今は世代交代とも言わんばかりに我が息子が熱心に遊戯しています。まだ4歳です。

「パパー！なんか変なヤツ出てきたぞ！」

呼ばれて仕方なく見に行くと、アミバでした。もちろんポーンナ確定。息子はどうやらバトル中が好らしく、パンチだのキックだの無邪気にはしゃいでいます。応援するのはいつもラオウ。と、そこに嫁が登場。

「いささかセンス、原稿の朝日が迫っておりますが、てゆうか過ぎていますか?」

「いやー、これはのりすけ君、すまんすまん」

倒錯者の原稿の締め切りが近づくといつも繰り広げられるサザエさんごっこです。

そして見えないようにしていたパソコンのメールをチェックすると、いつものことながら

「できれば今日中に原稿を仕上げてくださいです」

という編集者さんからの催促。ホント毎度毎度申し訳ないです。

さて気合を入れて原稿を書き始めます。トゥルルル...トゥルルル...

「もしもし、あんた何しとんの? ちゃんと手伝ってほしいんやけど」

オカンです。

「田んぼ? 行くわ〜」

我が家には田畑が少々あり、この時期は特に忙しく頻繁に狩り出されるので、さつさと農作業を終わらせ、原稿に再び向かい合います。トゥルルル...トゥルルル...

「ちよっと電気工事するぞ手伝ってくオヤジです」

「はいはい、行くわ〜」

電気工事が好きな親父は我が家の電気関係の工事をしまくりです。無意味に取り付けられたソレもあります。今回は呼び出しのチャイムの取付でした。これも適当に終わらせ再び原稿に向かうとしたそのときです。

「お〜い、ちよと来てくれ。教えてくれ」

半ば強引に私を呼び止めるのは、祖父です。パソコンに夢中の祖父は分からないことがあると私に聞きにくるので、米寿なのにパソコンを覚えようとする姿勢には感心しますが、最近正直なところめんどうくさいです。だって同じ質問の繰り返しなのですもの。

気を取り直して原稿を仕上げます。いろんな障害が毎回発生しますが、こういう家族もなかなかいいものです。今は朝の5時過ぎ、外ではスズメが鳴いています。